

平成28年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	25	10	05	たかつ区健康福祉まつり事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域ケア推進担当		坂尾	64813	

事業の概要

事業の概要	高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けることで、見守り支えあいの地域づくりを推進することを目的とする。健康や福祉に関する団体や施設による、それぞれの活動紹介や健康相談等といった各種催し物を、実行委員会に委託して実施する。						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	すこやか・支え合いまちづくり事業費			
	平成2年度	—					
地域の課題と現状	高齢化の進展、世帯構造の変化、地域のコミュニティ意識の低下、障害者の社会参加の機会の少なさ等により、地域で孤立する高齢者、障害者、子育て世代等が見られる。これらの問題を地域ぐるみで考え、見守り支えあ地域づくりが求められている。						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,097	1,000	1,090	1,054		
	財源内訳						
	国庫支出金						
	市債						
	その他特財						
	一般財源	1,097	1,000	1,090	1,054		

計画 (Plan)

事業の目的	高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けることで、見守り支えあいの地域づくりを推進することを目的とする。
今年度の事業の取組内容	日時 平成28年7月2日 10:00~15:00 場所 てくのかわさき 実施内容 参加団体の活動紹介、福祉施設自主製品の販売、健康相談・健康測定・育児相談、震災復興支援のための物品販売及び募金等 実施方法 「たかつ区健康福祉まつり実行委員会」への委託

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	7月2日たかつ区健康福祉まつりを開催し、参加団体の活動の報告の紹介、福祉施設自主製品の販売、健康相談や体脂肪率の測定、育児相談などの各種催し物を行い、1,100人が来場した。					
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1 成果指標	健康福祉まつりの開催(参加者)	目標 実績 1,800	1,800 1,100		人
	2		目標 実績			
	3		目標 実績			
	4		目標 実績			

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進が益々求められる。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) 平成 27 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	催し物の内容の検討により、報償費を削減した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進が益々求められる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	翌週が選挙の投票日だったこともあり、参加者は前年度を下回ったが、1,000人を超える人が来場し、高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けることで、見守り支えあいの地域づくりを推進することが出来た。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けるためには、市内で健康福祉に関する活動をしている市民で構成される実行委員会への委託が適当だと考えている。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	少子・高齢化の進展により、地域社会における市民の助け合いの重要性の向上が見込まれることから、引き続き実行委員会及び参加団体で構成される企画部会での検討を重ね、協働によって健康や福祉を共に考える場の提供・参加団体間の交流を深める。

平成28年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	25	10	10	高津区地域包括支援ネットワーク推進事業費			
担 当			所属コード			担当者		連絡先	
			675000			地域支援担当		荒木	

事業の概要									
事業の概要		①区民への在宅医療の理解を深めるための啓発及び介護支援関係者と医療関係者の連携強化を推進する。 ②高津区高齢者見守りネットワーク事業の協力団体、協力事業所を対象とした交流会と区民も含めた学習会を開催する。 また、地域の見守り活動等の立上げを行う自治会や町内会等に対して、助言者の派遣や活動事例集作成により支援を行う。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	すこやか・支え合いまちづくり事業費				
		平成26年度	—						
地域の課題と現状		2025年には高津区の高齢化率は20%を超過することが見込まれており、医療、介護を受ける環境も大きく変化することが予想される。2025年に向けてどのような準備が必要であるか、市民に広く理解してもらえるように事業を推進する。							
予決算 (単位:千円)		年度		H27年度		H28年度		H29年度	
				予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		653	464	1,127	695		
		財源内訳	国庫支出金						
			市債						
その他特財									
一般財源		653	464	1,127	695				

計画 (Plan)	
事業の目的	市民向けの在宅医療の普及啓発、介護支援関係者と医療関係者の連携強化を推進する。 地域社会全体で高齢者を見守る体制を構築し、互助の意識を高める取り組みを進める。
今年度の事業の取組内容	①市民向けの在宅医療の普及啓発を目的としたシンポジウムの開催。 ②高津区高齢者見守りネットワーク事業交流会・学習会の開催、リーフレット作成、地域の見守り活動の立上げ支援、高齢者見守り活動事例集の作成。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	①11月5日「住み慣れた家で最期まで暮らすために」をテーマに在宅医療の普及啓発を目的としたシンポジウムを開催、市民70名の参加。 ②3月3日「今日からできる支え合いのまちづくり」をテーマに地域での見守り事業についての講演会・交流会を開催、市民90名の参加。また、高津区地域みまもりネットワーク事業のリーフレット3,000部を作成。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1 活動指標	在宅医療シンポジウムの開催(参加者)			目標	100		人
					実績	100	70	
	2 成果指標	高津区高齢者見守りネットワーク事業交流会・学習会の実施(参加者)			目標	130		人
					実績	128	90	
3 活動指標	高津区高齢者見守りネットワーク事業のリーフレット作成			目標	3,000		部	
				実績	5,000	3,000		
4				目標				
				実績				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	・2025年問題の対策として、地域包括ケアシステムの推進は重要な課題であり、地域力を高め、自助、互助、そして共助、公助へと繋がる地域社会の醸成が求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 28 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	今年度のシンポジウムから、民間事業所等との準備委員会を開催し、より市民目線での内容構成となるように取り組んだ。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	高齢社会が進む中、重要な解決すべき課題となっている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域包括ケアシステムの推進に寄与し、市民の理解に欠かせない事業となっている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	シンポジウム、見守りネットワーク、リーフレット作成が地域包括ケアシステムの推進に集約される内容に改善できる可能性が感じられる。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	
			地域のつながり作り、多世帯マンションの地縁団体との連携等、新たな課題も顕在化しており、事業の拡充が必要となっている。

平成28年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	25	健やか地域推進事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域支援担当		富田	64836	

事業の概要

事業の概要	有酸素運動、筋力トレーニング、柔軟体操の要素が組み込まれている「高津公園体操」を地域に普及することで介護予防、見守り体制の構築を推進する。							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	すこやか・支えあいまちづくり事業費				
	平成19年度	—						
地域の課題と現状	超高齢社会の中で市民が主体的に健康づくりや介護予防に取り組む体制を作っていく必要がある。また地域における見守り体制の構築には多くの区民が関心を持っており、住民同士の関係が希薄化の中で、公園体操を軸に住民同士の連帯をすすめていく必要がある。							
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	364	259	353	327			
	財源内訳	国庫支出金						
		市債						
一般財源	364	259	353	327				

計画 (Plan)

事業の目的	介護予防に加え「閉じこもり予防」「見守り活動」も含めた各地域のコミュニティの活性化を目指します。
今年度の事業の取組内容	①普及啓発のための講演会等の実施(年1回)、ガイドマップの作成②公園体操立上げのための研修会の実施③リーダー交流会の実施(年1回)④既に実施している区民へのフォロー教室の実施(年1回)⑤CD・カセット・DVDの委託販売⑥保健師によるグループ支援⑦健康づくりグループ交流会の実施

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	①普及啓発のための講演会等の実施(年1回)、ガイドマップの作成②公園体操立上げのための研修会の実施③リーダー交流会の実施(年1回)④既に実施している区民へのフォロー教室の実施(年1回)⑤CD・カセット・DVDの委託販売⑥保健師によるグループ支援⑦健康づくりグループ交流会						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
	1	活動指標 公園体操の活動数	目標		37		グループ
			実績	35	37		
	2	活動指標 ガイドマップの作成	目標		3,000		部
			実績	3,000	3,000		
3	活動指標 フォロー教室の実施	目標		1		回	
		実績		1			
4	活動指標 リーダー交流会の実施	目標		1		回	
		実績		1			

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	超高齢社会で介護予防や地域での見守りの対策が求められている。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近)平成 28 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	公園体操を通して保育園児、小学生と中高年世代の多世代が交流できるようにすすめている。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	住民に身近な公園で実施することで、住民主体の活動が継続増加しており、ニーズは薄れていないと思われる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域での活動数が増加している。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	普及啓発の研修会とフォロー教室を一本化し、事業の見直しを図る。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	少子高齢化の中で、多世代の住民が集い健康づくりに取り組める体制を引き続き構築する。また、住民同士の関係が希薄化の中で、公園体操を軸に住民同士の連帯をすすめていく。

平成28年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	25	高津区こころのバリアフリー推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675250		高齢・障害課		藤野	64648	

事業の概要								
事業の概要	障害者及び障害者施設等と地域のコミュニティが交流・連携する機会を持ち、交流を通じて障害に関する理解が深まることを目的とした障害者施設の活動紹介や地域のイベントに障害者もスタッフとして参加を通して、障害に対するこころのバリアフリーを促進する。							
	実施期間	事業開始年度 平成28年度	事業終了年度 —	予算中事業	すこやか・支え合いまちづくり事業費			
地域の課題と現状	障害者及び障害者施設等と地域住民の交流が深まり、障害に関する関心と理解が高まる事で区民活動の幅がより広がる他、災害時等の緊急対応が円滑に進むことが期待される。日常の地域交流支援には区内各種団体・町内会・社会福祉協議会・障害者支援関連機関と行政が継続的に協働する必要がある。							
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費			718	264			
	財源内訳	国庫支出金						
		市債						
その他特財 一般財源				718	264			

計画 (Plan)	
事業の目的	障害者や障害者施設と区民が相互交流を通じて理解を深め、地域コミュニティの交流・連携を図る。
今年度の事業の取組内容	①区役所1階を活用したふくシティかつの毎月1回以上の定期開催 ②障害者もスタッフとして区民祭りや多摩川美化運動への参加 ③障害者の地域交流を目的としたシンポジウムの開催

実施結果 (Do)							
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等	①ふくシティかつに延59施設が参加 ②当事者が役割を持った地域活動に延14名が参加 ③12月17日の講演会に市民約40名が参加						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	活動指標	ふくシティかつの開催	目標		22	回
				実績		23	
	2	活動指標	障害者地域交流シンポジウムの開催	目標		1	回
				実績		1	
3	活動指標	多摩川美化運動や区民祭への参加	目標		2	回	
			実績		4		
4			目標				
			実績				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	障害者に対するの社会的関心の高まりと、障害者自身の社会参加への関心の高まりにより、相互交流の機会の提供が求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成30年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	運営に留まらず、企画立案分野についても実行委員会中心に実施の予定である。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	障害者の社会参加や施設の地域活動の必要性が高く、事業継続のニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	ふくシティかつ開催数や参加延事業所数の増加や当事者の地域イベント参加も増加しており、成果が上がっている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託業務の見直し等で経費削減を行った。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	市民の障害への関心の高まりや当事者の社会参加の希望に対応する必要があることから、当事者の自己決定をより尊重した企画運営にするため、年2回の実行委員会に加え、必要時に実行委員長が主催する小会議を新たに設け、参加事業所や利用者の意見を更に反映させることができるよう運営方法の見直し・改善を図る。